1.7月30日には松前中学校生徒会の皆さんが伊達市を訪れ、3日間の日程で梁川中学校生徒会と交流を深めました /2. 松前城跡の周辺は毎年松前さくらまつりでにぎわいます /3. やながわ希望の森公園内には松前の桜を見られる松前通りも /4. 梁川地域を中心に、松前藩が残した歴史を確認できます

「姉妹都市・北海道松前町と伊達市」

松前町（まつまえちょう）は、北海道の最南端に位置しており、道内では最も年間平均気温が高い、温暖な気候が特徴です。津軽海峡に面しており、本マグロやアワビなどの海産物が主な特産品として挙げられます。そんな松前町と伊達市は、200年以上も前から続く歴史的な絆で固く結ばれています。昭和59年には梁川町、平成23年には伊達市として松前町と姉妹都市協定を締結しており、その後は中学校生徒会の相互交流やイベントなどへの参加、道の駅などでの物産販売など、お互いを尊重し合いながら親睦を深めています。

市長コラム　第80回

映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」

須田博行

過去のコラム

この映画は、耳が聴こえない両親を持つ聴こえる子ども『コーダ』の心の葛藤と再生を描いた作品です。原作者である五十嵐（いがらし）大（だい）さんの実話を映画化したもので、日本映画批評家大賞で作品賞など4冠を受賞しています。

主演は、今映画やテレビに多数出演している人気俳優の吉沢（よしざわ）亮（りょう）さん。今年4月に「福島県上映を広める会」が発足し、私もその呼びかけ人の一人になっており、伊達市では、県内で先駆けて上映会を開催します（詳細は12ページを参照）。

ところで、この映画の伊達市との関係ですが、電車内のシーンは実際に走っている阿武隈急行を使用しており、また撮影場所のひとつとして梁川駅が選ばれています。撮影場所について呉美保（おみぼ）監督は、「沿線の新緑が美しく、阿武急の駅を一つ一つ降りてみました。梁川駅に降りた瞬間ここだと確信しました」とおっしゃっていました。

さて、この作品の中では「ふつう」という言葉がよく出てきます。いつも何気なく使っている言葉ですが、改めて使い方の難しさを考えさせられます。

五十嵐少年にとって、これまで耳の聴こえない両親との生活が「ふつう」であったのに、あることを境に、「ふつうではない」と周りから見られていることに気付きます。

聴こえる人は聴こえない人を、自分とは違う世界にいると見てしまう。そうした考えが無意識のうちに差別を生んでしまうのだと思います。

この映画を見て、改めて、自分のものさしで物事を考えてはいけないと気付かされました。これまで私は、原作を読み、映画も見ました。その度に新たな思いが押し寄せる作品です。市民の皆さん、どうかこの映画をぜひご覧いただき、ふたつの大切な世界があることを感じ取っていただきたいと思います。

編集・発行　伊達市総務部秘書広報課　令和7年8月28日発行　NO.235
〒960-0692 福島県伊達市保原町字舟橋180番地　TEL024-575-1113　FAX024-575-2570　印刷・製本　株式会社　CIA